

4、5月の米国景気・雇用・物価動向

ポイント① 景気・物価の基調に大きな変化なし

5月31日に発表された4月の米個人消費支出デフレターは、前年同月比+2.0%、エネルギー、食料品を除くコア個人消費支出デフレターで同+1.8%と、3月と同じ伸びとなりました。インフレ率はFRB（米連邦準備制度理事会）の2%の目標にかなり近づいている一方で、早期に2%を大きく超えるほどの勢いはないようです。

同時発表の4月の実質個人消費は、前月比+0.4%と3月の同+0.5%に続いて堅調な伸びを記録しました。1、2月には実質個人消費は前月比で減少しましたが、3月以降、持ち直したことが示されました。

6月1日発表の5月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数は3か月ぶりに前月比で上昇しました。一方、支払価格指数は、小幅ながら6か月連続の上昇となりました。エネルギー、原材料などの川上の物価上昇圧力が依然強いことが示唆され、川下の個人消費支出段階の物価への波及が続くと見られます。

ポイント② 約18年ぶりの低失業率

6月1日発表の5月の米雇用統計によれば、失業率は、3.8%と4月の3.9%から低下し、2000年4月以来の低水準となりました。非農業部門雇用者数は前月比+22.3万人と、4月の同+15.9万人を上回りました。

一方、民間非農業部門の時間当たり賃金は、前月比+0.3%となり、前年同月比は+2.7%と、4月の+2.6%を上回りました。

ポイント③ 注目される年後半の利上げ回数

6月12、13日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では、インフレ率がFRBの目標に近づいたことや、景気、雇用が堅調に推移していることから、3月21日の前回利上げに続く今年2回目の0.25%の利上げ（フェデラルファンド金利目標レンジ：1.50～1.75%→1.75%～2.00%）はほぼ確実と見られます。

注目されるのは、今年後半の利上げに対するFOMC参加者の予想中央値が、1回（0.25%）となるか、2回（0.50%）となるかという点でしょう。FOMC参加者は米国景気が当面堅調に推移するとの見方では概ね一致しているようですが、インフレに対する見方にはばらつきがあり、貿易摩擦などを警戒して利上げに慎重な人もいます。

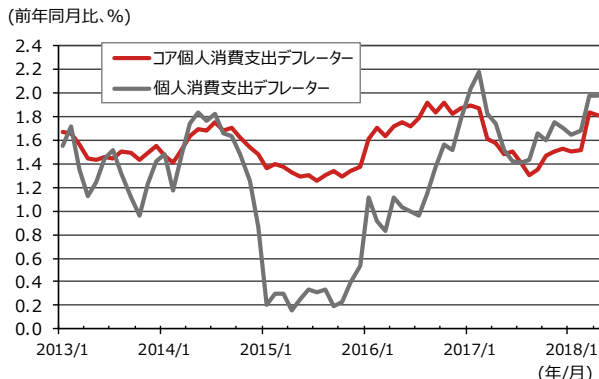
重要
イベント

6月5日 米ISM非製造業景況感指数(5月)
6月12日 米消費者物価指数(5月)
6月13日 米金融政策発表

NOMURA
野村アセットマネジメント

図1：米国個人消費支出デフレター

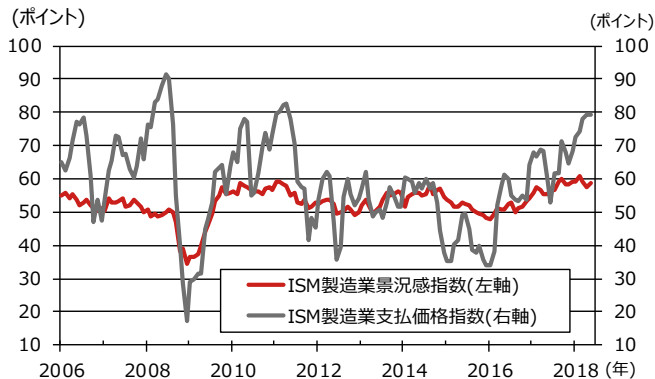
期間：2013年1月～2018年4月、月次



(注)コア個人消費支出デフレターは、エネルギー、食料品を除く。
(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米国ISM製造業景況感指数と支払価格指数

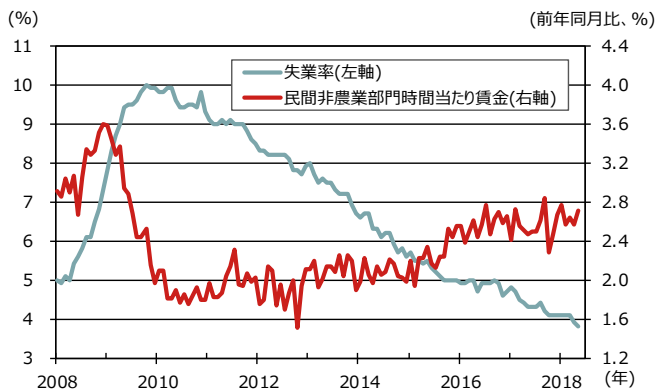
期間：2006年1月～2018年5月、月次



(出所)Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図3：米国の失業率と時間当たり賃金

期間：2008年1月～2018年5月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。